INSIDE-OUT

木二中 学校だより No.７ 令和５年５月22日
校長　山元　竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801　千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280　FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j

運動会 in 1978

１９７８年は、私が小学６年生を迎えた年です。勉強が何よりも大嫌いだった（汗）山元少年は、学校の中で唯一活躍できたのは、体育と運動会だけ（笑）。千葉市の埋め立て地、新興住宅地にできたばかりの小学校は、各学年２クラスくらい、当時としてはとても規模の小さな学校でした。

運動会が近くなると、勉強はさておいて駆け足？逃げ足？だけは速かった山元少年が、今年は白組なのか？紅組なのか？で街の話題になるくらい（ほぼウソ）、それはもう大変なことでした。

６年生、小学校最後の運動会はもちろんアンカー、運動会のフィナーレを飾る選抜リレーの花形です。１位紅組、２位紅組、３位白組、最下位でバトンを受け取った白組山元少年は、トラック一周を走る間に、前三選手をごぼう抜き！、白組を逆転優勝に導いたのでした。あれから４５年かぁ…。（大きなため息）

私が考える体育祭とは

基本的には今も昔も変わらない体育祭。私のように普段、勉強では活躍できない児童・生徒が一躍ヒーローになれる行事なのかもしれません。実際、私もその一人でした。体育祭は運動が得意な生徒たちのものなのでしょうか？私は、学校の先生という職業に就いてから、その考え方が大きく変わりました。

多くの生徒の中には、実は体育祭が好きではないと考える生徒もいるでしょう。運動が得意ではない生徒にとっては、もしかしたら団体種目などでは、「僕が、私がみんなに迷惑をかけてしまうかも。」と思い悩むこともあるかもしれません。はたして、それでいいのだろうか？

実は、体育祭（他の学校行事も）って生徒の心を大きく育ませる絶好のチャンス。

在籍する全校生徒が一人一人お互いの長所・短所を認め合い、尊重し合うこと。そして、その大切さを教職員も含めた全員が共有すること。

これが私が考える体育祭（他の学校行事も）のあり方だと思います。学級担任をしていた頃よく

「〇〇くん（運動が得意ではない生徒）さ、こういうの（団体種目とか）あんまり好きじゃないからさ、〇〇くんのために周りのみんなができることって何だろう？」

「オーケー、じゃ〇〇くんはさ、周りのみんなが助けてくれる分、みんなのためにできることって何だろう？」と問いかけていました。

この問答だけで、生徒は仲間のことをいつもよりちょっとだけ多く考えるようになります。

他人の長所はひがむものではありません。他人の短所は責めるものではありません。長所は讃え、短所は認め、その両方を含めた人格を尊重するのです。

運動が得意な生徒は、そうでない生徒をカバーするためによりいっそう頑張る。運動が得意ではない生徒は自分のために頑張ってくれる生徒を必死に応援する。そして、運動以外の場面では、当然それが逆になることもある。それぞれが様々な活動場面で、自分の長所を発揮することができ、短所をお互いにカバーし合う場面が学校にはたくさんある。本来、「学校行事」とは、そうでなければならないと私は考えています。

運動に限らず誰にだって得意、不得意はあるもの。得意だから「やる」とか、不得意だから「やらない」とかではなく、この仲間たちと二度と戻らない時間をどうやって過ごしたら楽しい思い出になるのかを考えて取り組むことが何より大切ではないのかな？と。

雨上がりに濡れないように水たまりを避けて下ばかりを見て歩くのか、それともウキウキしながら虹が出ていないかな？と上を向いて歩くのか。考え方や心の持ち方次第で見方や感じ方は変わる。

競技である以上、勝ち負けはついてまわるのかもしれないけど、勝ち負けに関係なく全校生徒の笑顔があふれる、みんなが楽しいと思える体育祭に…。ただそれだけを何より願っています。

迂直（うちょく）の計～急がば回れ～

保護者の中にはご存知の方もいらっしゃるかと思いますが、この言葉は孫子（そんし）の兵法書、軍争篇に出てくる兵法の一説で、敵を欺くのに用いられる戦略の一つです。

孫子の兵法書は、戦争の心得や戦術などを説いた中国の古典。兵法書と言えば、真っ先に思い浮かべられるほどよく知られています。要点を捉えた簡潔な文で、企業戦争を生き抜くビジネスマンのバイブルとして、一時期有名にもなりました。

昔の書物なので、そのまま受け入れられない内容もありますが、なるほどと感じるところも多々あり、簡潔で内容が深いことから、実社会での応用範囲は止まるところを知らないとまで言われています。企業戦略として孫子に学ぶ人もいれば、人心を掴む手段として孫子に学ぶ人もいるように、孫子の兵法の解釈の仕方は人それぞれ。私自身、孫子の兵法書の解説本を読むのが大好きで、私は人生の荒波を生きていく上での手引き書的な解釈の仕方をしています。

「軍争の難きは、迂（う）を以って直と為し、患を以って利と為す」

この言葉には、わざと遠回りをしてみせ、最終的には敵より多くの利を得る、という戦略的な意味が込められています。一見すると遠回り【迂】しているようだが、実は一番の近道【直】であるという策略を、中国の先人たちは戦の常套手段としていたのでしょう。「急がば回れ」に近い意味になりますかね。私にはこの言葉については別の解釈があって、

「自分の意思であえて茨（いばら）の辛く厳しい遠い道を選ぶことが、何事にも最短の道になる」。というものです。

これはまさに中学生の学校生活、主に勉強に当てはまると思いませんか？地道に基礎を固める学習は、時間のかかることかもしれないけど、それが希望する進路への最短ルートとなる、つまり、「急がば回れ」ということなのです。

体育祭練習にも当てはまりますね。各色、勝利のためにどの種目のどんな内容に時間を割いて練習するのか。各色リーダーたちの戦略もあるだろうし、各色リーダーたちの腕（リーダーシップ）の見せどころでもあると思います。

実はこの「迂直の計（うちょくのけい）」という言葉、私が高校生、１７歳のときに、恩師に教わったもの。公立高校を中退し、再入学の過年度生として入学した私に、「人がやらない事をお前はやろうとしているんだ。長い人生、人よりちょっと時間がかかったっていいじゃないか。」同級生はみんな一つ上の学年。同学年には一つ下の後輩たちが。高校２年の夏で部活動引退。何とも言えない胸が締め付けられるような辛い日々を過ごしていた当時の私は、恩師のこの言葉に何度涙し、幾度となく励まされたことか。私にとってまさに人生の手引きとなる言葉に出会ったのです…。

令和５年度木二中体育祭。体育祭当日だけではなく、日ごろの練習から生徒一人一人の一挙手一投足に私は注目していきたいと思います！

１学年校外学習大成功

先週１９日（金）、第１学年校外学習は、午後からあいにくの雨天とはなりましたが、概ね大成功、全員元気に活動することができました。第１学年各クラスの代表者の手記を下記に掲載いたします。ご覧いただければと思います。

※手記及び氏名の掲載については、本人及び保護者に承諾をいただいています。

１年１組　岩﨑笑花さん

中学生になって初めての校外学習で、自分たちで計画したり、行動したりして大変な事もあったけど、楽しく校外学習に行けて良かったです！

１年２組　小野幹太郎さん

今回の校外学習は１２Ｒ全体が問題なく予定通り進み、良かったなと思いました。しかしみんながしゃべって指示が通らないことがありました。なので次からはこのことを意識しましょう。

１年３組　内海聡介さん

１３Ｒの目標は「ルールとマナーを守りながら歴史について学び、自分たちで行動できる力を身につけよう」なので、ゴミが出たら自分たちで持ち帰り、挨拶ができていたのが良かったところです。反省は、バスの中のレクをもっと聞いた方がいいと思いました。

１年４組　尾形厚樹さん

５月１９日の校外学習では、カップヌードルミュージアムを見学し、その後各班で班行動となりました。班で協力をし、楽しい校外学習にすることができました。

１年５組　宇治野真羽さん

反省点は数人が自分の係の自覚が足りず周囲に迷惑をかけてしまったこと、計画通りに進まなかったこと、自分たちで決めた目標にしっかり取り組めなかったことです。

「楽しかった！」という感想もあれば、「反省点を今後の学校生活に意識して生かしていきたい」とか、「計画通りに進まなかった」と悔しさが伝わる手記も寄せられました。入学してから間もなく２カ月。中学生としての階段を一歩ずつ、しかも確実に歩み始めましたね。まだまだ先輩の背中を追いかけなければなりませんが、着実に成長を遂げています。頑張れ！１年生！